

1

今年度の結果と取り組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

<p>国語A (領域ごと)</p> <p>①話すこと・聞くこと やや課題が残る結果であった</p> <p>②書くこと 概ね良好な結果であった</p> <p>③読むこと やや課題が残る結果であった</p> <p>④言語事項 やや課題が残る結果であった</p> <p>⑤関心・意欲・態度</p> <p>(問題形式)</p> <p>①選択式 概ね良好な結果であった</p> <p>②短答式 やや課題が残る結果であった</p> <p>③記述式</p> <p>(無解答率) 概ね良好な結果であった</p> <p>(その他)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学校の特徴的なことについて記入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっとも正答率の高かった設問 2一</li> <li>・もっとも正答率の低かった設問 6一</li> <li>・もっとも無解答率の高かった設問 8一</li> </ul> </div>
--

<p>国語B (領域ごと)</p> <p>①話すこと・聞くこと</p> <p>②書くこと やや課題が残る結果であった</p> <p>③読むこと やや課題が残る結果であった</p> <p>④言語事項 概ね良好な結果であった</p> <p>⑤関心・意欲・態度</p> <p>(問題形式)</p> <p>①選択式 やや課題が残る結果であった</p> <p>②短答式</p> <p>③記述式 やや課題が残る結果であった</p> <p>(無解答率) 概ね良好な結果であった</p> <p>(その他)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学校の特徴的なことについて記入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっとも正答率の高かった設問 3二</li> <li>・もっとも正答率の低かった設問 2三</li> <li>・もっとも無解答率の高かった設問 2三</li> </ul> </div>
--

<p>分析</p> <p>A問題</p> <p>6一：問題文を最後まで読み、理解をする力が弱い。<u>長い問題文、書き問題</u>に対する強い苦手意識があることが考えられる。</p> <p>B問題</p> <p>1三：無解答率は全国と大きな差は無かったが、正答率が低かった。三つの条件を満たすこと、自分の考えを書くことに苦手意識があることが考えられる。問題にチャレンジはしたが、2つとも正解になることが難しかった。</p> <p>2三：解答を本文から抜き出すだけの問題ではなく、条件を満たすこと、必要な情報をつなげて新たな文章を作り出すこと、使わなくてはいけない語句があること、また、単語の理解が、高いハードルになっている可能性がある。</p> <p>子どもたちがつまづく要素が重なっていることが、無解答率の高さにつながっている。<u>単語の理解、必要な情報を選び出す</u>ちからなど、複合的な力が必要である。</p>
--

# ○●算数・数学●○

## 算数・数学A

(領域ごと)

### ①数と式

やや課題が残る結果であった

### ②図形

概ね良好な結果であった

### ③関数

概ね良好な結果であった

### ④資料の活用

概ね良好な結果であった

(問題形式)

### ① 択式

やや課題が残る結果であった

### ②短答式

やや課題が残る結果であった

### ③記述式

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

学校の特徴的なことについて記入

- ・もともと正答率の高かった設問 1(4)
- ・もともと正答率の低かった設問 5(4)
- ・もともと無解答率の高かった設問 9

## 算数・数学B

(領域ごと)

### ①数と式

課題が残る結果であった

### ②図形

概ね良好な結果であった

### ③関数

やや課題が残る結果であった

### ④資料の活用

概ね良好な結果であった

(問題形式)

### ① 択式

概ね良好な結果であった

### ②短答式

概ね良好な結果であった

### ③記述式

やや課題が残る結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

学校の特徴的なことについて記入

- ・もともと正答率の高かった設問 3(1)
- ・もともと正答率の低かった設問 6(3)
- ・もともと無解答率の高かった設問 3(2)

## 分析

### A問題

○文章題でも、一問一答ならできている。

○図形の証明

○一次方程式

○相対度数

- ・計算問題については、指数の計算の仕方が定着していないと考えられる。反復練習の量を確保するため、家庭学習の習慣をいかに定着するか課題である。
- ・計算問題でのケアレスミスも考えられる。一通り解き終わってから、見直しをする習慣ができているか。
- ・『移項』『指数』などの言葉の意味や、途中式を丁寧に書く習慣が定着していない。
- ・図形の問題では、面積を求める計算はできる。その反面、空間認識については授業で扱う時間を多く取れないこと、解き方を忘れてのことなどが、正答率が低い原因だと考えられる。

### B問題

○図形の証明

○確立

- ・問題全体の意図を読み解くこと、文章の中から必要な情報だけを選ぶことに課題がある。
- ・関数などでは、式を書くこと、グラフから式を導き出すという単純なことなら手を付けられるが、そこに文章などが入ってくると情報を整理できなくなる。
- ・持っている知識を応用する問題に課題がある。

## ○●経年比較●○

### 全体的な傾向についての分析

平均正答率は H20 年で大きく上昇し、H21 年で下がり、H24 年までは横ばいだった。H24 年からは上昇傾向にあり、今回数学 B に関しては正答率が大きく伸びているが、その反面、国語 B の正答率は伸び悩んだ。生徒質問紙の結果からも、国語に対する苦手意識が強くうかがえる。無答率も H21 年より減少傾向である。

### 学力高位層と学力低位層についての分析

学力高位層は H20 年から H24 年まで減少傾向にあったが H24 年より増加傾向が続いている。学力低位層は H21 年より減少傾向にある背景として、3 校合同で展開している、聴きあい学びあう子どもを育てる授業づくりの成果と思われる。また、学年や学校全体の様子の変化も関連性が考えられる。

## ○●取り組み●○

### 学力向上に関する取り組み

#### ①授業づくり研修

##### <3校合同>

豊川中学校区での連携。3 校合同での授業づくり研究など

##### <校内研修>

部会内で取り組み（研修内容）の確認、学年方針を確認、計画、実施を徹底する。また、取り組み内容の反省を毎回行い、次の計画を進める。四人班の活用・コの字は継続。

#### ②授業研・教材研修などの校内研修の充実

授業アンケート、従来の授業研究は継続する。さらに、教職員でグループワークをしたり、交流する機会を設け、組織的な授業改善につなげる。教材づくりのヒントにすること、教材を練ることが目的であり、また他教科と関連付けた授業内容も考案していく。分かりやすい教材提示に ICT を積極的に導入し、研修や環境整備も推進していく。ユニバーサルデザインを取り入れた授業を展開することで、多様な子どものつまずきに対応。ビデオ授業研では、生徒がどこで学び、どこでつまずいているかを共有し授業づくりに活かす。

#### ③学力向上に向けた取り組みの継続

自主勉ノートを活用し家庭学習の習慣化を目指す。家庭学習の手引きを年度当初の家庭訪問で配布。読書タイム、放課後学習会、自主活動（生徒会活動）と連携した授業づくりを行っていく。TT、分割授業、少人数指導による、基礎基本の定着と生徒のペースに寄り添った指導。専門支援員、支援教育サポーターとも連携し、生徒のつまずきに対応。テスト後学習会。府の HP にある問題や、いばらきっ子スタディの活用。テスト前の授業ががんばろう週間の取り組みで宿題を出して、保護者には携帯メールで宿題のあるなしを配信し、協力を得る。

#### ④学力の各データ分析、考察、次年度の方針立て

確認テストの実施（経年比較）、定期考査と自主勉の相関など。学力向上の成果を数値で表わし検証する。

#### ⑤低学力層の減少に向けた取り組み

習熟度別学習の実施、ユニット制の導入、新聞学習の計画的導入、補習学習の実施。全国学力テストにて検証する。

#### ⑥体力向上

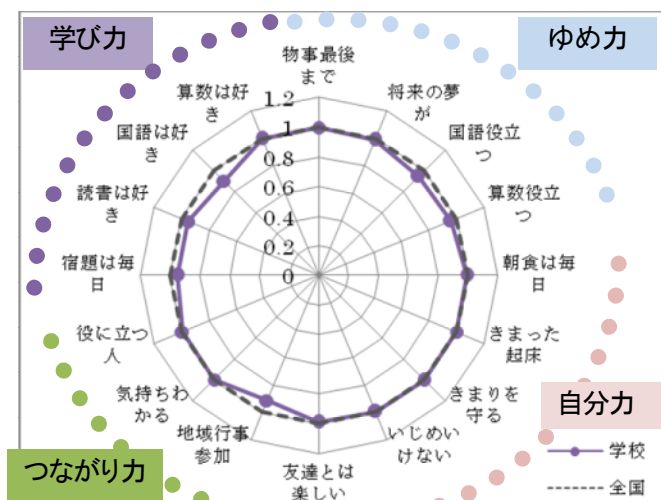
食育や体の発達など教科を通じて生徒の意識を高める。あいさつ運動やボランティア活動、部活動などの自主活動の活性化を図る。

#### ⑦ゆめ力の育成

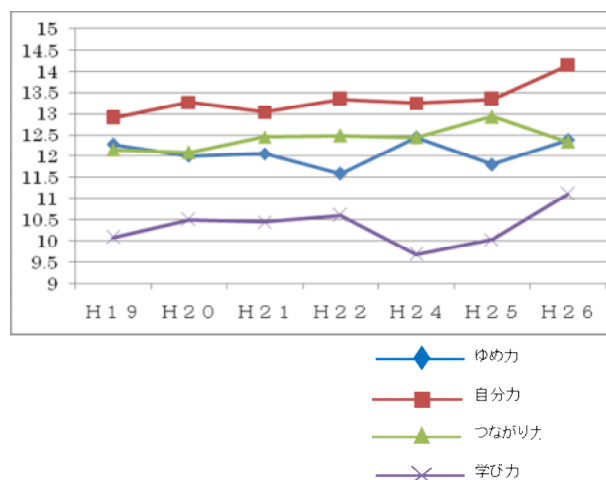
人権総合学習との連携。各教科でも集団づくりをすすめる。職業体験などを通じて自尊感情を高め、短・中・長期的な目標をもたせる取り組み。最後まであきらめない進路決定までのプロセスの構築。

# ○●子どもたちに育みたい力●○

今年度の結果



これまでの推移



## 分析

- 学び力では、H24年度から上昇傾向にある。H19年度から見ても、もっとも高いポイントを示している。特に「算数(数学)が好き」という項目が高く、数学Bの結果につながっていると思われる。読書の習慣や国語に対する意識が低い。「宿題は家で」も低い原因として、家庭学習の習慣が定着していないことと、小学校と違い宿題＝家庭学習ではなく、自分で予習復習(自主勉強)などをする新しい習慣を身につけさせなくてはならない。
- ゆめ力は、年度によって上下はあるが、H19年度から少しずつではあるが上昇傾向にある。H25年度と比べると大きく上昇している。特に、「物事を最後までやりきる」、「将来の夢が」などは、高いポイントを示している。
- 自分力は、H19年度から上昇傾向にある。特に、「きまった起床」「きまりを守る」は、全国平均を上回った。「朝食を食べる」のポイントも高く、本校の課題になっていた「基本的生活習慣の確立」の面が少し改善されているように思われる。
- つながり力は、H25年度に比べ、唯一、下降傾向にある。H19年度からの比較では、大きくポイントが下がっているわけではなく、学年による特徴があると考えられる。「地域行事への参加」は全国値よりポイントが低い。「とよかわフェスタ」「やよい祭り」「地域の運動会」などの地域行事には参加していることもあり、地域とのつながりが強い校区だと思っていたので、実態との差を感じる結果であった。

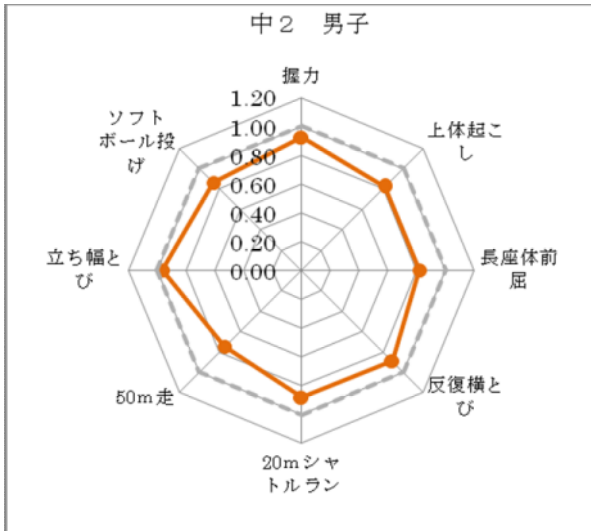
## 取り組み

- 学び力は、学力調査の結果からも、国語力の弱さを感じる。引き続き、読書タイムの継続と「学びの共同体」の理論に基づいた、グループワークと生徒同士の交流に重点を置き、自らの力で課題を解決することを大切に授業づくりを推進する。また、経年比較では、年々上昇傾向にあるが、宿題がなければ家庭で学習をしない生徒が多くいることが伺えるので、教科で出た宿題をしっかり出しきれるように支援していきたい。
- ゆめ力、自分力ともに上昇傾向にあり、これらは学年・学校が落ち着いている状況にあることが要因であると思われる。今後とも、生徒に自立を促す自主活動を推進し、人権総合学習を通じ、キャリア教育をおこない将来への展望をもたせたい。
- つながり力は、現3年生の課題の一つであると認識している。本校では、1年時から、集団づくりを大切にしており、今後とも継続していきたい。地域行事については学校参加を促すとともに、様々な人と触れ合うことで他者から学ぶ姿勢や、地域の良さを語り継ぐことのできる生徒を育てたい。

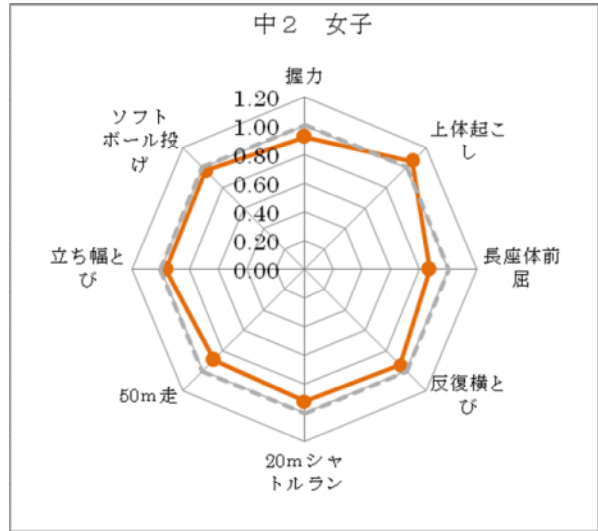
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子 (中2)



女子 (中2)



分析

全国平均と比べると、男女ともに低い値の結果となった。特に男子はかなり低く、50m走は顕著に見られる。総合評価(5段階評価)においてもAは男女ともに0人、男子はB, C, Dがほぼ同じ数である。女子はBが半数以上をしめている。運動部や地域スポーツクラブへの所属は高い学年であり。アンケートの結果では運動が『好き』『比較的好き』と答える生徒がほとんどである。よって50m走のタイムの低さは体力テストにのぞむ意欲を高めることで向上できるのではないかと分析する。

取り組み

教師と生徒の関係性を高めるとともに、体を動かすことの楽しさが味わえるよう授業づくりに取り組んでいる段階である。具体的には服装の徹底からはじまり、ラジオ体操や筋力トレーニングなどを取り入れ、基礎体力の向上につとめている。

基本的には大半の生徒が体を動かすことが嫌いでない学年であるので、生徒自らが意欲的に活動に取り組めるように引き続きしていきたい。また、運動部(外部のスポーツクラブを含む)に所属する生徒も多いので継続していけるようにサポートしていきたい。

## 2

## 3年間の計画

	(各校)		(ブロック共通)
	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
目標	聴き合い学びあう子どもを育てる	運動に親しむ資質や能力、 明るく豊かな生活を営む態度の育成	つながる・自立・学力の基盤
平成26年度	①3校合同授業研の実施 ・6月(豊川中学校)、10月(豊川小)、2月(郡山小) ・7月(夏季ビデオ研) ②授業づくり研修を、人権教育・支援教育・情報教育などと連携し展開する。ICT活用に特化した研修も含む。 ③継続して取り組みを行う。 ④確認テストから学力データを経年で蓄積し、学年の特徴や学力を総合的に分析 ⑤中高連携を密に。キャリア教育の充実。 ⑥校内の授業アンケートを行い、子どもの授業内容の定着度合いや、授業づくりの重点課題を分析。また、学力テストの結果分析もふまえて、子どもに必要な学力を授業でどう付けていくかを考える。 ⑦ユニバーサルデザインを取り入れた、授業の展開。生徒一人ひとりのつまずきは多種多様であるが、一人残らず授業に参加させ学びを保障する取り組みを展開する。	①4月新体力テストの実施 過去データと比較できるよう、業者へデータ分析を依頼する。 ②授業づくり 体を動かせることを意欲的に取り組めるように、授業の内容・方法を工夫する。研修にも参加し授業力向上に努める ③具体的な目標設定 目標や到達点を文章化することにより、継続的に取り組む体制を組織的につくる。 ④生活アンケートの実施 3食きちんと食べているかなど、食事・運動・休養が正しく行われているか検証、適宜面談等をおこなう ⑤部活動の活性化 生徒数減少にともない部活数を増やせないが、部活の活性化につとめる	●幼・保・小・中・高連携の基盤づくり ・基礎的な生活習慣の定着を進めていくとともに、様々な生活体験を通して心情豊かに、安心して過ごせる集団をつくり、遊ぶこと、体を動かすことが楽しいと思える子どもを育てる。 ・校区全体で、つながりを持って取組を展開し、一人も見捨てず、集団づくりと授業づくりの連携のなかで、全ての子どもたちが、違いを認め合い育ち合う集団をつくる。
平成27年度	①3校合同授業研の実施 ・年3回 ・夏季ビデオ研 ②授業づくり研修を、人権教育・支援教育・情報教育などと連携し展開する。ICT活用に特化した研修も含む。 ③継続して取り組みを行う。 ④確認テストから学力データを経年で蓄積し、学年の特徴や学力を総合的に分析 ⑤中高連携を密に。キャリア教育の充実。 ⑥校内の授業アンケートを行い、子どもの授業内容の定着度合いや、授業づくりの重点課題を分析。また、学力テストの結果分析もふまえて、子どもに必要な学力を授業でどう付けていくかを考える。	①～⑤を継続して実施 分析・改善策を検討	●連携の強化 ・保・幼連携、保・小連携、小・中連携、小・小連携。 ・職場体験や生徒会・児童会などの連携行事で子ども同士の交流を深める。 ・保・幼・小・中での連携を継続させる。 ・内容の検討、ふりかえり、子どもたちへの定着を検証。 ・行事の内容などの改革。校区で出来ることの模索。

<p>平成28年度</p>	<p>①②を継続、3年間の成果を検証。          ③図書館利用状況、自主勉ノトと学力等の相関から分析、考察、検証。          ④3年間の学力データを分析、考察。          ⑤全国学力テストより分析・考察。          ⑥スポーツテストにて検証。          ⑦学習状況調査・生徒質問紙および生活アンケートより検証、分析。</p>	<p>①～⑤の分析改善策検討</p>	<p>●校区全体での連携推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校卒業時点を視野に入れ、豊かな進路選択ができるような、学力・生活習慣の定着。</li> <li>・成果と課題の分析。</li> </ul>
---------------	--	--------------------	---